

採材現地検討会の開催について

岩手県宮古市江繋字早池峰山国有林180林班

令和6年9月5日、株式会社ウッティかわい、岩手県森林組合連合会、東北森林管理局青森事務所を講師に迎え、林業事業体等63名（当署職員含む）が参加して採材現地検討会を開催しました。

この検討会は、生産事業における間伐材の一般材比率の向上や広葉樹低質材からの一般材採材及び仕訳等について、請負事業体の採材方法等の統一を図り有利採材、有利販売等の推進を図る目的で開催したものです。

開催に当たり、当署署長より「現在は、木材の需要が低迷している状況だが、今後木材需要が回復した時に備え有利採材にしっかり取り組んでいきたい。」との挨拶に続き、東北森林管理局青森事務所より東北森林管理局管内における木材需給動向等についての説明を受けた後、採材検討に移りました。



今回の供試木は当署管内の主要な人工林植栽樹種であるスギ・カラマツ（針葉樹）、検討会会場周辺で多く生育するウダイカンバ（広葉樹）2本の計4本で、針葉樹は曲がりの欠点をどう判断するかをポイントとし、広葉樹については元玉の曲がりや節などの欠点の評価と積極的な一般材の採材を狙いとしました。

採材検討は5班に分かれ、曲がりや節などの欠点を慎重に確認しながら品等区分や何mの材を採材するか検討を重ねました。

引き続き行われた検討結果の発表においては、針葉樹で2m採材か4m採材かで意見が分かれ、各班の欠点の捉え方や採材の優先順位の違いが伺えたものの、広葉樹は各班とも概ね2.2mの一般材採材という結果でした。

各班とも、これまで培った経験を活かし、どのような樹種・品等の材に需要があるのか、製材工場等での使われ方などまで検討した発表となり、参加者は熱心に聞き入っていました。





以上の採材検討結果も踏まえ、株式会社ウッティかわい より「最近の木材加工では、品質よりも歩留まりが重要視されており、採材方法により歩留まりが悪くなることで輸入材に対抗できず、結果として国産材の需要が減ることにつながる」と、大局的な視点から採材の重要性をご説明いただき、針葉樹材の採材上の注意点等について情報提供いただきました。

また、岩手県森林組合連合会からは、広葉樹材の採材指導や販売状況・製品の動きについて情報提供いただき、「（供試木のウダイカンバのように）欠点があっても2.2mの採材にこだわらず長材（4m）の採材も可能である」など熱心なご指導をいただきました。

最後に、東北森林管理局青森事務所副所長より「様々な採材方法があり採材に正解はない。今後も引き続き有利採材に取り組んでいただきたい」との挨拶があり、木材市場及び流通状況に配慮した素材販売等の促進について確認し、検討会を終了しました。

今回の採材現地検討会の開催にあたり、有限会社道又林業には準備段階から多くの時間を割いてご協力いただきました。また、お忙しい中ご出席いただきました参加者の皆様大変ありがとうございました。